

中間試験の結果

	1	2	3	4	5	6	総合
平均点	8.3	12	11	14	4.4	8.9	58.6

非常に甘く採点しています。大問 1,2 は講義で扱った内容ですし、大問 4-6 と (ほぼ) 同様の問題が配布した演習問題にあります。いくら範囲が広がったとはいえ、ちゃんと準備していれば手も足も出ないということはなかったはず。

大問 1— ε - N 論法による極限の扱いは微分積分学の基本ですので、しっかりと復習しておいてください。

大問 2— 連続性の定義はしっかりと抑えておいてください。この関数は、導関数が不連続になる関数ということで何度も講義に出てきたはず。

大問 3— $\tan x$ の加法定理を使いこなせていない学生が意外と多かったです。これは高校の内容ですので、講義で補足はしません。各自復習を。

大問 4— 6 月 6 日分の小テストの類題です。Landau の記号 $o(g(x))$ は扱いが少し難しいですが、慣れると便利ですので是非使いこなせるようになりましょう。

大問 5— Taylor 展開を利用して極限を求める問題です。 $\sec x$ が出てきますが、大問 4 の結果を使わずとも計算自体は可能です。

大問 6— Leibniz の公式を使えばよいだけなのでサービス問題のつもりでしたが、公式を使わずに解こうとした学生が殆どで驚きました。

レポートについて。

中間試験の問題を全問解き直して 7 月 4 日 (火) までに提出してください。締切厳守です。ただし、中間試験の点数が 70 点以上の方は任意とします。

レポートの書き方についての注意事項

1. 学籍番号および氏名を忘れずに書くこと。
2. レポート用紙は自由です。市販のレポート用紙でなくても、普段使っているルーズリーフでもよいです。ただし、ばらばらにならないようにステープラー等で綴じるようにしてください。
3. レポートは、試験と違ってノート・教科書なども参考にして構いませんが、丸写しは不可です。何をしているのか、なぜそのようにするのかをわかるように、根拠を明確にして書いてください。
4. 丁寧に書くよう心掛けてください。時々、解読に時間が掛かるものがあったりします。レポートはあくまでも他人に見てもらうものですので、最低限読めるように書いてください。
5. 用紙を使い惜しまないようにしてください。一頁にむりやり詰め込んで書いてしまうと、どの問題について記述しているのかを判別することが難しくなります。